

季刊・オーディオ アクセサリー

Audio Accessory

クオリティアップを目指す全てのオーディオファンへ!

求める一台が必ず見つかる!

新世代プリメインアンプ&注目スピーカー スクランブルテスト

全ては「脚元」から。その画期的なアイデアを検証
進化型スパイクベース徹底比較



特別付録
二人の巨匠による、
聴いたことのない「日本のうた」
本島阿佐子×山下洋輔
サンプラー CD

Phile
web

AA誌の注目記事
WEBでも楽しめます

2017 AUTUMN **166**



特集
本誌厳選! 注目の15モデル

新世代 プリメインアンプ & スピーカー スクランブルテスト

Text by 井上千岳 Chitake Inoue / 生形三郎 Saburo Ubukata

Photo by 田代法生

CDの情報量を上回るハイレゾ音源も一般的となり、ここ数年の間にアナログレコードも復活を遂げた。それらのソースを楽しむために必要となる「プリメインアンプ」。そこで今号の特集では、ミドルクラスを中心に本誌が15機種をセレクト。6種類の人気スピーカーを組み合わせながらテストを敢行。それぞれのモデルが持つ魅力や個性を本企画でお楽しみいただきたい。



コストパフォーマンスの高さを誇る 英国ブランドのスタイリッシュモデル

Profile

コストパフォーマンスの高い製品ラインアップで知られる、英国CREEKのEVOLUTIONシリーズのトップモデル。G級動作を採用しているのが大きな特徴。パワー部は温度センサーを備え、トランジスターの温度を管理し、バイアス電流の調整を行っている。デジタル入力およびフォノ入力には、オプションのカードで対応している。



CREEK EVOLUTION 100A

¥370,000(税別)

DETAILS

■ 入出力端子類

【アナログ系】入力:RCA×5(Line 1はフォノボード増設でPHONO入力に変更可。Line 5はチューナーモジュールあるいはDACモジュールとの置き換えが可能)、XLR×1

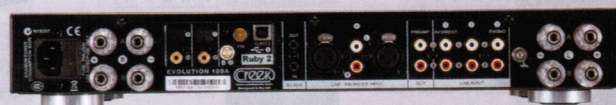
【デジタル系】入力:RUBY 2 DACにより、光TOS×2、RCA同軸×2、USB 2×1の増設が可能

【スピーカー出力】A、Bの2系統

■ SPEC

●出力:110W+110W(8Ω)、170W+170W(4Ω) ●最大供給電流:±26A(0.5Ω、50mS) ●全高調波歪率(THD):<0.002% 2/3 rated power 8Ω ●周波数特性:10Hz~100kHz ±2dB(RCA時)、10Hz~50kHz ±2dB(XLR時) ●ゲイン:×46(33.3dB、RCA時)、×22.5(27.0dB) ●入力感度:410mV ●クロストーク:-80dB(1kHz) ●S/N:>102dB ●セパレーション:>80dB(1kHz) ●消費電力:最大500W(待機時20W) ●サイズ430W×60H×280Dmm ●質量:9kg ●取り扱い:(株)ハイ・ファイ・ジャパン

■ REAR



RUBY 2 DAC(¥97,000/税別)を増設した状態のリアパネル

井上千岳

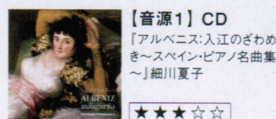
駆動力に富んだ再現性
粒立ちも細かく繊細

ハイCPなEVOLUTIONシリーズの上位機で、ユニークなクラスGというアンプ構成を持つ。フォノカートのほかDACやBluetoothもオプションで用意され、多彩な発展が可能だ。見かけによらず線の太い、駆動力に富んだ出方をする。レンジが広く、特にウーファーを強力に把握して厚手の音調を作り上げているのが注目される。ピアノは立ち上がり速く、タッチが大変しっかりして彫りが深い。低音部にもにじみがなく、深く沈んで明瞭なベースを形成する。粒立ちも細かく繊細だ。室内楽は粘りのある質感が、瑞々しく引き出されている。S/Nがよく、音の周囲が静かだ。ハーモニの手心はずっしりとしているが、流れは滑らかで音楽の起伏が豊かに描かれる。オーケストラはダイナミズムの幅が広く、トゥッティの瞬発力が生きている。低音弦やティンパニも明瞭で、金管も幅のある響きが壮麗だ。ジャズはドラムスが軽快に動きながらどっしりと沈み、トロンボーンも響きが厚く肉質に富む。ハイスピードで凹凸の大きな再現である。

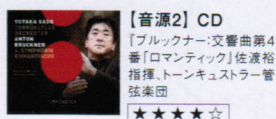
アナログレコードの再現性

オプションのMM/MCカードSEQUENCE 48 MK2を使用。解像度が高くバランスのいいレスポンスで、バロックはアンサンブルが緻密に描かれる。ヴァイオリンもオーボエも表情に溢れた音色で、きれいに乗った余韻が空間の奥行きを実感させる。音数の多い鳴り方だ。ピアノは一層切れがよく、タッチをクリアに厚く引き出している。ホールの余韻が豊かにのっているが、それで音像が呆けることはなく、ステージの見えるような音場感が出色である。

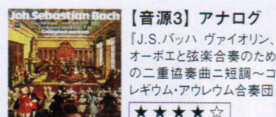
ソフトマッチング (Monitor Audio PL200II)



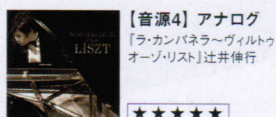
【音源1】CD
『アルベニス:入江のざわめき〜スペインピアノ名曲集〜』細川夏子
★★★★☆



【音源2】CD
『ブルックナー:交響曲第4番「ロマンティック」佐渡裕指揮、トーン・キリストラー管弦楽団』
★★★★☆



【音源3】アナログ
『J.S. バッハ:ヴァイオリン、オーボエと弦楽合奏のための二重協奏曲二短調〜コレギウム・アウレウム合奏団』
★★★★☆



【音源4】アナログ
『ラカン・バネラー・ヴィルトゥオ・オゾ・リスト』辻井伸行
★★★★★

各スピーカーとのマッチング (井上)



Monitor Audio
PL200II

音色	クール	ウーム
音楽の表現力	繊細志向	迫力志向
音調のバランス	軽快	重厚
空間の表現性	音場重視	音像重視



ELAC
BS312

音色	クール	ウーム
音楽の表現力	繊細志向	迫力志向
音調のバランス	軽快	重厚
空間の表現性	音場重視	音像重視



Sonus faber
VENERE Signature

音色	クール	ウーム
音楽の表現力	繊細志向	迫力志向
音調のバランス	軽快	重厚
空間の表現性	音場重視	音像重視

PL200IIは安定して骨格が強く、ワイドレンジなレスポンスで鮮やかな再現を展開する。VENEREもスケールの大きい鳴り方で、ピアノは低音部の量感が強力。オーケストラは金管・ティンパニの豪快さなど大柄な表現だ。またジャズはややふくよかで、柔和な手触りが温かい。BS312はストレートで情報の詰まった鳴り方だ。密度が高く響きも太く、シャープで切れがいい。彫りも深く、オーケストラはダイナミックで強靱だ。

生形三郎

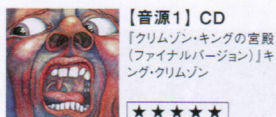
身の詰まった密度高い再生音
端正な世界観を持つ

ダーリントン・トランジスタを用いたG級動作によって、コンパクトな筐体ながら、チャンネルあたり110Wもの出力を実現するアンプだ。オプションボードの追加により、フォノイコライザーアンプやUSB DAC入力、チューナー機能などを追加することが可能。視認性の良いインジケータを持った、洗練されたフロントパネルを持つ。薄型筐体の上部スリットからは、巨大なトロイダルトランスが顔を覗かせている。その出音は、S/N感のよい、音の「地」と「図」のはっきりとした、コントラストの高い音だ。身の詰まった密度高いサウンドである。音色的には、中低域に僅かに重心が置かれるほかは、強い個性を持たせず、無用な脚色を抑えた端正な世界観を持つ音。ソプラノやヴァイオリンも上質な音色で描き、決して金属的にならない。無用に音が広がったり、重低域をこれ見よがしに引き出すことがないので、手の届く範囲の音世界を、クリアかつ上質に、確固たる音世界でカチリと築き上げる。

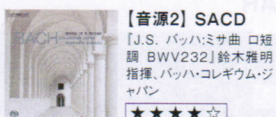
ハイレゾ音源の再現性

オプションボードであるRUBY DACを追加すると、Bluetooth接続とFMチューナー機能に加え、最大192kHz/24bitまでのデジタル再生が可能となる。その再生音は穏やかな音色で、若干陰りのあるサウンドが楽しめる。楽器の音像は大きめでややセンターに集約され、スピーカー前面側に音が配置される。よって、演奏のディテールを把握しやすい。これ見よがしに解像感を強調したりワイドレンジ感を演出したりしないので、穏やかに音楽が楽しめるサウンドだ。

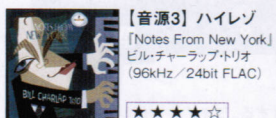
ソフトマッチング (JBL 4312SE)



【音源1】CD
『クリムゾン・キングの宮殿 (ファイナルバージョン)』キング・クリムゾン
★★★★★



【音源2】SACD
『J.S. バッハ:ミサ曲 口短調 BWV232』鈴木雅明指揮、バッハ・コレギウム・ジャパン
★★★★☆



【音源3】ハイレゾ
『Notes From New York Eyes』ダイアナ・クルール (96kHz/24bit FLAC)
★★★★☆



【音源4】ハイレゾ
『When I Look In Your Eyes』ダイアナ・クルール (96kHz/24bit FLAC)
★★★★★

各スピーカーとのマッチング (生形)



KRIPTON
KX-1

音色	クール	ウーム
音楽の表現力	繊細志向	迫力志向
音調のバランス	軽快	重厚
空間の表現性	音場重視	音像重視



JBL
4312SE

音色	クール	ウーム
音楽の表現力	繊細志向	迫力志向
音調のバランス	軽快	重厚
空間の表現性	音場重視	音像重視



TAD
ME-1

音色	クール	ウーム
音楽の表現力	繊細志向	迫力志向
音調のバランス	軽快	重厚
空間の表現性	音場重視	音像重視

基本的に、スピーカーを選ばないバランスのよいアンプだ。TAD ME-1では、モニターライクなバランスの良さを実現。中低域に重心があり、重低域再現は重たくなり過ぎない。

JBL 4312SEでは、ピアノの音色は適度に色彩感があり、滑らか。30cmウーファーをしっかりと制動しつつも、スケール感あるゆったりとした表情を描く。クリプトンKX-1では、アンプとスピーカー、互いの真面目な音楽性がフィットし、飽きの来ない、過不足のない端正な音世界を描いた。

スタイリッシュな薄型アンプで パワフルなブリッジ接続に挑戦

Text by 石原 俊
Shun Ishihara
Photo by 田代法生

CREEK EVOLUTION 100CD

CDプレーヤー
¥290,000 (税別)



EVOLUTION 100P

ステレオパワーアンプ
¥290,000 (税別)

リーズナブルな価格と品質の確かさで注目されるCREEK(クリーク)。
前号ではプリメインアンプEVOLUTION 100AとパワーアンプEVOLUTION 100Pを組み合わせ、
バイアンプ駆動の結果をレポートした。
今回はEVOLUTIONシリーズの50Pと100Pのパワーアンプ2モデルを、
それぞれ2台使ったブリッジ接続に挑戦。
ボリューム調整機能を持つ同シリーズのCDプレーヤー、50CDと100CDと組み合わせ、
シンプルかつパワフルなシステムを構成してみた。

EVOLUTION 50CD

CDプレーヤー
¥203,000 (税別)



EVOLUTION 50P

ステレオパワーアンプ
¥150,000 (税別)

常識的な価格の高性能機で
評価を集める老舗ブランド

クリークEVOLUTION 50Pと100Pをブリッジ接続した音を聴く機会に恵まれた。

そもそもクリークは英国のオーディオ・エレクトロニクス・メーカーだ。創業者のマイク・クリークがプリメインアンプの一号機、4040を発表したのは1981年のこと。以来「ローコスト・ハイパフォーマンス」という設計思想を掲げ、常識的な価格の高性能機を市場に供給している。

EVOLUTIONは同社のベリシックなラインを構成するシリーズである。EVOLUTION 50Pは出力55W×2(8Ω)のパワーアンプだ。内容的にはプリメインアンプのEVOLUTION



EVOLUTION 50CDのリアパネル。アナログ出力はRCAとXLR。デジタル入力にはRCA同軸×2、光TOS×2、USB Type Bの5系統を装備する



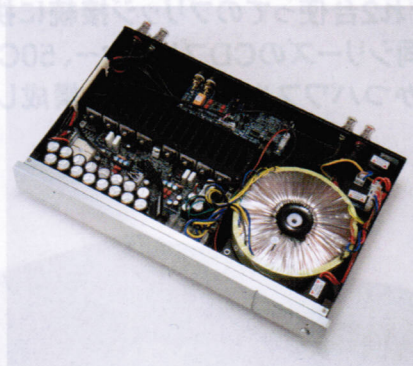
EVOLUTION 100Pのリアパネル。50Pと同様、入力端子はRCAとXLRを装備。ブリッジ接続の時は、スピーカー出力端子「A」の「+」側を使用する



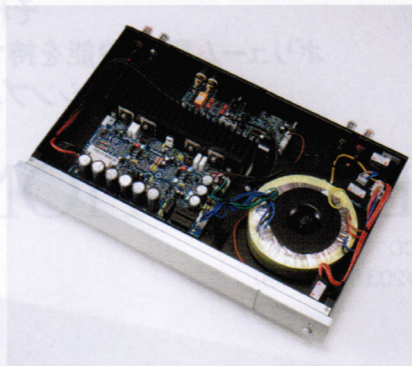
EVOLUTION 50Pのリアパネル。入力端子はRCAとXLRを装備。ブリッジ接続の時は、XLR入力端子とスピーカー出力端子の「+」側を使用する



EVOLUTION 50CDの内部。50CDは初期設定を変更することで出力可変モードして、リモコンでボリューム調整をすることができる



EVOLUTION 100Pは、50Pよりもさらに大型のトランスを採用。回路構成も50Pよりも複雑になっている



EVOLUTION 50Pの内部。大型のトランスと2枚の基板で構成されている

ブリッジ接続で別次元の世界が開けた

50Aのパワーアンプを独立させたものといつていい。終段の素子はバイポーラトランジスタで、二段ダーリントン回路×2で構成されている。バイアスは一般的なAB級動作だ。

一方、上位モデルの100PはプリメインアンプのEVOLUTION 100Aのパワーアンプ部を独立させたようなモデルだ。二段ダーリントン回路が50Aの倍の4回路なのだが、バイアスは通常のAB級とはやや異なるG級という方式を採用している。この方式の回路は低い信号レベルで動作すると電源電圧が低くなるので、AB級よりも効率が良く、発熱が少ないので使いやすい。

両モデルともシングルエンドの他、バランス入力端子を装備している。このバランス端子がついているところがミソで、この端子と専用のケーブルアダプターを用いて両者をブリッジ接続し、モノラルパワーアンプとして使用してみようというのが本稿の主旨である。

理論的には出力電圧が2倍になるブリッジ接続

ここでブリッジ接続についてざっくりと説明しておこう。ブリッジ接続はBTL接続とも呼ばれ

るもので、ステレオアンプをモノラルアンプ化する使用方法である。ステレオアンプの片側のチャンネルを「+」側として使い、もう一方のチャンネルを「-」側として使い、グラウンドをショートさせるのがブリッジ接続の原理だ。電源回路の質にもよるが、理論的には出力電圧はステレオの2倍になり、電力は4倍になる。グラウンドがショートしているの、信号電流が流れず、アンプの帰還ラインの混交調歪が低減されるときに、正相と逆相の信号が流れることで両者が打ち消し合い、見かけ上電源の変動が皆無になるという利点がある。その一方で、音楽信号の通る回路規模が倍になることで、音の瑞々しさが失われるという弱点もないわけではない。

■EVOLUTION 50P情報量と解像度が飛躍的に向上した

まずは50Pを単体で聴いた。ペアを組むオーディオエレクトロニクスはCDプレーヤー/USB DAC/プリアンプのEVOLUTION 50CDである。最近、本誌試聴室の常駐スピーカーがモニターオーディオのGOLD

3000から同社のPLATINUM M200に変更されたので、本来は50Pとはやや格が違うのだが、それでもこの高性能スピーカーを十分にドライブする力がある。信号の送り出し役の50CDには情報を取捨選択するようなところもあるのだが、音楽を楽しく聴かせてくれることにかけては、なまじの高級機もかわらない。これはこれで十分にいい音である。だが、ブリッジ接続にすると別次元の世界が開けるのである。

ケーブルアダプターの使用法はこうだ。シングルエンド入力端子と50CDをRCAケーブルで接続し、入力端子とつながっているバランス出力端子を左チャンネルに、もう一方を右チャンネルに inputsする。これによって左右の回路に正相と逆相の信号が入力されるという寸法だ。なお、グラウンドはアダプター内部でショートしている。

素晴らしい音である。1台使用時とはまったくの別物といっても過言ではない。情報量と解像度とスピーカーのドライバリティが飛躍的に向上するとともに、サウンドに濡れた瞳のような艶やかさと砂糖の代わりにジャム



ブリッジ接続のためのアダプター(¥32,000/ペア、税別)。RCAジャック部を50CD/100CDのRCAアナログ出力とRCAケーブルで接続し、XLRコネクターを50P/100Pと接続する



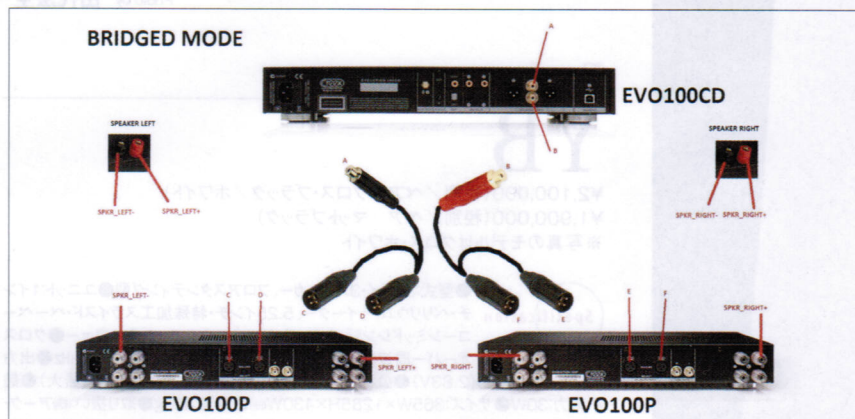
付属リモコンは各モデル共通



EVOLUTION 100CDのリアパネル。構成は50CDとほぼ同じだが、Bluetoothのアンテナ端子が追加され、RCA出力端子がグレードアップされている



EVOLUTION 100CDの内部。50CDにはないボリュームノブ、ヘッドフォン出力端子、Bluetooth等を持つため、内部も複雑になっている



EVOLUTIONシリーズをブリッジ駆動で使うための接続図

Specifications

<EVOLUTION 50CD> ●デジタル入力:SPDIF(192kHz/24Bit)×2、Toslink(192kHz/24Bit)×2、USB 2(192kHz/24Bit)×1 ●デジタル出力:SPDIF、Toslink ●出力インピーダンス:47Ω ●SN比:>-110dB ●アナログ出力:RCA(2.0V RMS)×2、XLR(4.0V RMS)×2 ●メカ:CD slot-loader ●DAC:Wolfson WM8742×2 ●消費電力:20W ●サイズ:430W×60H×280Dmm ●質量:5.5kg ●仕上げ:Silver、Black(受注生産 +¥15,000)
<EVOLUTION 50P> ●出力:55W/ch(8Ω)、85W/ch(4Ω)、200W(MONO、4Ω) ●最大供給電流:26A(STEREO)、50A(MONO) ●歪み/THD:<0.005% 20Hz~20kHz ●出力インピーダンス:<0.1Ω(1kHz) ●SN比:>102dB ●周波数特性:10Hz~100kHz±2dB/Line ●利得:×46(33.3dB) ●入力感度:410mV ●クロストーク:-80dB(1kHz) ●入力:RCA、XLR ●消費電力:最大 350W、待機 <20W ●サイズ:430W×60H×280Dmm ●質量:7.5kg ●仕上げ:Silver、Black(受注生産 +¥15,000)
<EVOLUTION 100CD> ●デジタル入力:SPDIF(192kHz/24Bit)×2、Toslink(192kHz/24Bit)×2、USB 2(96kHz/24Bit)、Bluetooth ●デジタル出力:SPDIF、Toslink ●SN比:>110dB ●デジタルフィルター:デジタルフィルター ●アナログ出力:RCA(2.0V RMS)×2、XLR バランス(4.0V RMS)×2 ●出力インピーダンス:47Ω ●ヘッドフォン出力:6.35mmジャックソケット(8~2kHz対応) ●CDメカ:CD slot-loader ●DAC:Wolfson WM8742×2 ●消費電力:20W ●サイズ:430W×60H×280Dmm ●質量:5.5kg ●仕上げ:Silver、Black(受注生産 +¥15,000)
<EVOLUTION 100P> ●出力:110W/ch(8Ω)、170W/ch(4Ω)、400W(MONO、4Ω) ●最大供給電流:26A(STEREO)、50A(MONO) ●歪み/THD:<0.002% 20Hz~20kHz ●出力インピーダンス:<0.05Ω(1kHz) ●SN比:>102dB ●周波数特性:10Hz~100kHz ±2dB/Line ●利得:×46(33.3dB) ●入力感度:650mV ●クロストーク:-80dB(1kHz) ●入力:RCA、XLR ●消費電力:最大 500W、待機 <20W ●サイズ:430W×60H×280Dmm ●質量:9kg ●仕上げ:Silver、Black(受注生産 +¥15,000) ●取り扱い:株式会社ハイファイ・ジャパン

■EVOLUTION 100P 1台使用時よりも はるかに「ゴージャスな音」

を入れた紅茶のような上品な甘味がついている。ジャズは1台使用時よりもサウンドステージが大きくになるとともに、各楽器の音に色気のようなものがついてくる。ヴォーカルにも色気がある。しかも声が伸びやかで、発音や音程が聴き取りやすい。クラシックはハイエンド機さながらの奥行き感と艶やかな音色が楽しめる。この音がこの価格で手に入るのなら安いものだ。

今度は上級機の100Pを単体で聴く。ペアを組むのは100CDだ。確かに信号の送り出し側の情報量は多く、音のクオリティも高いのだが、50Pのブリッジ接続を聴いてしまった後ではパワー感や音色感に不満が残る。このことからEVOLUTION Nシリーズのパワーアンプをブリッジ接続することのメリットが分かっていただけたらと思う。

そこで100Pを2台使ってブリッジ接続をする。1台使用時よりもはるかにゴージャスな音である。100万円超級のステレオパワーアンプよりも情報量が多

く、スピーカーのドライバビリティが高く、しかも低音がよく出る。音色は50Pのブリッジよりもさらに高級感があって、美女に見詰められたような高揚感が得られるとともに、上等なブランドを口にふくんだ時のような甘みを感じる。ジャズは巨大なサウンドステージにゴージャスなセッションが展開する。画像の分解能はすこぶる良好でしかも味わい深い。ヴォーカルは50Pのブリッジ接続と同様に色気があって、しかもニュアンス表現が精妙で、これまで分からなかったディテールにいくつか気づいたほどだ。クラシックは演奏のクオリティが上昇したかのようなイリュージョンが味わえた。

1台使用時よりも音色に甘みが増えるのがEVOLUTIONのパワーアンプのブリッジ接続の特徴のようだ。おそらくは音楽信号の通る回路規模が2倍になったことでこれまで隠れていた特色が表れたのだと思う。

ブリッジ接続は全てのステレオパワーアンプに有効なわけではないが、今回の取材で、少なくともEVOLUTIONシリーズのパワーアンプには有効であることが確認できた。

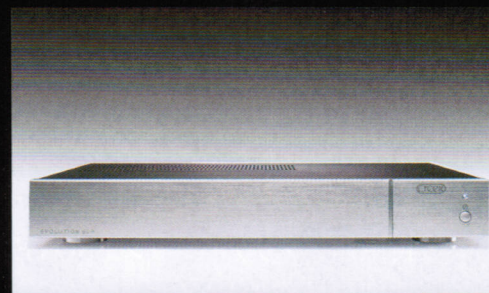
Photo by 田代法生





EVOLUTION SERIES

from entry level to high-end amplifiers



Evolution 50CD DAC & CD Player ¥203,000/税別

Evolution 100CD DAC/CD/Pre-amp ¥290,000/税別

Evolution 50A Integrated Amplifier 55W 8Ω AB級 ¥167,000/税別

Evolution 100A Integrated Amplifier 110W 8Ω G級 ¥370,000/税別

Evolution 50P Power Amplifier 55W 8Ω AB級 ¥150,000/税別

Evolution 100P Power Amplifier 110W 8Ω G級 ¥290,000/税別

Creek Audio

Designed and Engineered in the UK

株式会社ハイ・ファイ・ジャパン 〒102-0075 東京都千代田区三番町1-8 tel: 03-3288-5231 fax: 03-3288-5233

www.creekaudio.com / www.hifijapan.co.jp